

喜びにあふれて

日本基督教団
塚口教会
〒661-0012
尼崎市南塚口町
2丁目34-3
電話 06-6429-3019

喜びにあふれて

ルカによる福音書 一〇章二七―二四節

沖村裕史

一〇章冒頭、イエスは「七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた」、その弟子たちが、今、帰ってきました。一七節、「七十二人は

喜んで帰って来て、こう言った。『主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。』弟子たちは、悪霊さえも屈服する、というすばらしい体験を与えられて戻って来ました。そのことをイエスは、蛇やさそりに譬えられる様々な危険やあらゆる敵対する力に打ち勝つことができ、書を加えるものは何一つなかった、と言われます。力強い勝利宣言です。

当然、「良かった」と迎えてもらえるはずでした。ところが、このときのイエスの言葉は実に意外なものでした。二〇節、「しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んでほらない。』予想外の言葉です。「えっ、なぜ」と問い返そうとしたとき、「むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」。伝道の成果よりも、あなたがたの名が天に記されていることを喜びなさい、そう言われます。

「喜び」と訳されるギリシア語には、二つの言葉があります。一つは「エドネー」、感

覚的・感情的な喜び。もう一つは「カイロー」、永遠的・根源的な喜びです。いわば「エドネー」は苦しみや悲しみによって消えてしまふ喜びですが、一方、苦しみや悲しみの中であつてなお、喜ぶことができる、それも歯を食いしばって喜ぶというのではなく、苦しみや悲しみの中にあつても、わたしたち自身の中に永遠の内に包み込まれていることに気づかされるときの喜び、それが「カイロー」です。

ルカは、この言葉を実に巧みに用いています。今朝の出来事の中で繰り返して使われている「喜び」はすべて、この「カイロー」です。降誕物語でも、洗礼者ヨハネの誕生は、老いたザカリヤだけでなく、多くの人の「喜び」となり、羊飼いに對して天使たちが告げているように、イエスの誕生は民全体の「喜び」となりました。また、幼子のいる場所の上で止まった星を見た占星術の学者たちは「喜びにあふれた」とありますが、これを直訳すれば「非常に大きな喜びを喜んだ」です。これ以外でも、群衆はイエスの行いや言葉を「喜び」、弟子たちは復活したイエスを「喜び」、イエスの昇天も彼らの「喜び」となります。

このような喜びは人間が作り出す喜びではなく、神から来る喜びです。いわば、永遠のいのちに与っている喜び、この喜びが「カイロー」です。人間的な成功、不成功が問題なのではなくて、一人ひとりが永遠の神の内に包み込まれている喜びが、この言

葉に示されます。どのようなときにも、永遠の神の内であつて喜びに満たされる、これが信仰の力であり、福音の力です。だからこそ、弟子たちが帰ってきたとき、見事な働きをしたそのときに経験した驚くべき成果ではなく、あなたが永遠につながっているということを心から喜びなさい、その喜びに満たされなさい、とイエスは言われたのです。

事実、二一節前半、「そのとき、イエスは聖霊によつて喜びにあふれて」。イエスは、霊によつて、つまり、信仰によつて、大きな喜びに満たされています。

信仰というと、わたしたちはつい、歯を食いしばってイエスのことや、神のことを思うのが信仰だと思ってしまうのですが、そうではありません。前回二節でも申し上げたように、「収穫は多い」のです。わたしたちが失敗しようが、要領が悪かろうか、成果を上げられなくとも、神は、豊かに実りを与えてくださっているのです。成果やノルマに縛られてはなりません。人生には苦しいときもあれば、そうでないときもあります。時を得ても得なくとも、人生の中で様々な体験をします。人生の終りに近づけば、わたしたち自身の終りが大きな問題となつてきます。しかし、その人がそのままで、永遠の霊に包み込まれています。信仰は、わたしたちの人生を小さくさせていくものではなく、豊かにしていくものです。

だからこそ二二節後半、「天地の主である父よ、あなたをほめたええます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。」「これらのこと」とは、弟子たちの宣教、福音伝道の成果のことでしょう。そ

のめざましい成果の報告を受けたときにイエスは、「父よ、あなたはこれらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました」と言われたのでした。

「幼子のような者」の「幼子」と訳されているギリシア語は「ネーピオス」、ルカがここで一度だけ使う言葉です。「ネー」は「ない」、「ピオス」は「エポス」言葉が変化したものだから、ネーピオスとは「言葉がない」という意味になります。イエスは言われます、「これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。神は、宣教の、福音伝道のめざましい成果を、知恵ある者や賢い者にはなく、幼子のような者、無学な者、言葉を持たない者にこそお示しになった。弟子たちによる宣教は、口先だけの言葉や知恵によるものではなかった、言葉なき者、知恵なき者による福音伝道だった、ということ。言葉なき者による無言の行い。そこには、サタンさえ天から落ちるほどの、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つほどの力がある。そう言われたイエスが、「弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。『あなたがたの見るものを見る目は幸いだ。』」あなたがたと神から祝福されていることでしょう」と言われたのです。

どのような時にも、どのような者であっても、神から祝福されていることに気づかされたわたしたちは、今日から始まるアドヴェントの季節を、まさに大きな喜びにあふれて、共に歩んでまいりたい、そう願う次第です。

(二〇一八年二月二日、
アドヴェント主日礼拝)